

薬剤耐性検査ラボ研修は検査の質向上から結果解析にまで
(2023年6月12-16日)

最終年度も引き続き、ラボ検査技術の向上はプロジェクトの重要な活動です。[2022年9月に実施したラボ検査技術OJT研修](#)から継続して、HIV 薬剤耐性ウイルスの遺伝子検査をテーマに研修を実施しました。Polymerase Chain Reaction (PCR、ポリメラーゼ連鎖反応)の成功率を高めるためのプライマー設計はどうあるべきか、シーケンス後に得られた遺伝子配列データをどのように読み、データを精査して結果を導くか考え実行できるようになること、そしてWHO（世界保健機構）が[HIV 薬剤耐性ウイルスに関する検査作業枠組み](#)で示す、高いレベルでの薬剤耐性検査ができるようになることを目指します。

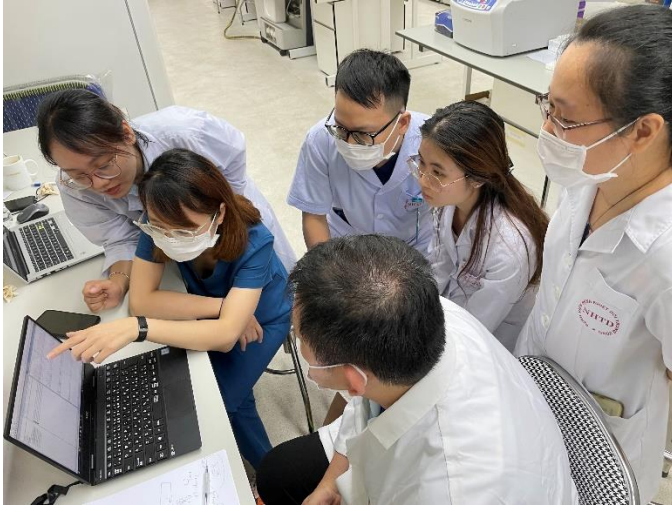


まずは林田専門家による講義から。内容は専門的で、日本語・英語を交えた内容をベトナム語に通訳するのも一苦労です（苦笑）

そして実際のラボ検査をやりながら、色々なプライマーの効果を試していきます。

講師には前回に引き続き、日本の国立国際医療研究センター（NIGMS）-エイズ治療・研究開発センター（ACC）から林田専門家に来て頂きました。ベトナム側からは国立熱帯病病院（NHTD）のラボスタッフが参加しました。今回も実地でのOJT研修で少数精鋭のメンバーに集まって頂きました。これまでの研修の参加者、2023年1-3月に本邦で実施した[JICA 課題別研修「HIVを含む各種感染症コントロールのための検査技術とサーベイランス強化」](#)の

参加者、今回初の参加者が双方に助け・議論し合い、技術の習得に励んで頂きました。



PCR を経て得られた遺伝子配列データをどう読むか、どのようにクリーニングするかについて皆で議論します。



最後は講師の林田専門家から参加者へ修了証を授与。更なる質の高いラボ検査に向けて、若い皆さんの学びは続きます！

1 週間の研修の最後には、プロジェクトとしての修了証を授与し、更なる学びへの励みになること、そしてベトナムの医療の明日を担う若い皆さんの更なる活躍に期待しています！